★李相日監督映画「国宝」と世阿弥「風姿花伝」に相通じる精神

- → 関連チャートの風サイン強調から、世阿弥「風姿花伝」を連想
- → さらに「占星術」継承も連想
- •申楽、申楽 → 観阿弥&世阿弥 一子相伝 秘伝→ 公開
- ・原作小説 → 映画作品 テーマの継承「風姿花伝」奥義 → 「言葉を超えて伝える」→映画化で実現
- ▼「占星術」象徴体系/技芸継承にも相通ずることなのではないか?
 - →伝統、古典 モダン、時代様式、文化 様相 多様性 変遷 →占星術師個々の創意工夫 取捨選択 解釈の幅 広義/狭義

古代の天体観測、目視、日時計、水時計 機械時計の発明、天文観測機器の発達 印刷技術の発明、天文暦 天体観測からの解放

古今東西 残存する占星術書 翻訳出版

- → 伝統占星術技法 再発見
- → 日本語訳も出版 有難い

コンピューターの発明→P C用各種占星術アプリ開発 手計算からの解放

翻訳アプリ → 進化発展 恩恵多大

- → 外国語動画 外国語ネット記事 即翻訳
- → 言語の壁からの解放
- ★過去から現在へ:伝統、古典、モダン技法 応用 多種多様化 混在

学習方法:書籍独学 対面講座、通信講座、ビデオ講座受講etc.

鑑定方法:イベント、電話、対面、メール、ビデオ通話etc.

情報乱立:インターネット、ブログ記事 Web占星術 動画アーカイブ

A I 技術 → 試行錯誤進化発展 紆余曲折 占断にも応用可能

A I 占星術 黎明期到来 → Now

^^^^^^

■ 参考資料: 『「風姿花伝」第五 奥義に云はく → 芸の継承 奥義

○原文:ネット記事より転載 ★引用ページ下記参照

しかれば、道をたしなみ、芸を重んずる所私(わたくし)なくば、 などかその徳を得ざらん。

ことさら、この芸、その風を継ぐといへども、自力より出づる振舞あれば、 語にも及びがたし。その風を得て、心より心に伝ふる花なれば、風姿花伝と名づく。

○訳文:ネット記事より転載 ★引用ページ下記参照

だから、能の稽古に務め、私心なく芸を重んじれば、 どうして、能の道が興隆しないことがあろうか。 とくに、この芸は、古来の猿楽の伝統を継ぐといっても、 私の努力・工夫によって発明した、伝統に相違する演技もあるので、 そのいちいちを言葉による説明をしきれない。

猿楽の伝統を受け継ぎながら、言葉では伝えきれない部分までも、 心から心へと伝える猿楽の花であるので、 『風姿花伝』と名付けるのである。

〇くりまる解釈 言い換え:「国宝」映画の場合

小説「国宝」の映画化は、上映時間の制限の中で脚色・演出に創意工夫が凝らされており、大きな相違もある。 元より、原作の内容すべてを語り尽くすことはできないし、 改変部分の相違についてをいちいち言葉で説明するのは野暮である。

だが、原作の「風=スキル=精神」を「心から心へ」と受け継ぎ、 極上の「映像美/花」を創出した映画「国宝」は「風姿花伝」の奥義を 極め、体現した作品と言えるのではないか。

〇くりまる解釈 言い換え:「占星術」の場合

私心なく占星術技芸の習得に務めるなら、 占星術がすたれることはない。

古来より連綿と途切れなく続く占星術技法の継承は、 古今東西、折々の時代の様相、言語、文化の相違の中で 研究され、創意工夫が凝らされ、幾多の変遷を経ている。 今となってはその相違すべてを語りつくすことはできない。

世阿弥「風姿花伝」の奥義と同様に占星術においても、 根幹をなす「象徴体系」「天と地の照応」の真髄を感得し、 学びを深め、修練を積み、奥義を極め、心から心へと伝えて、 体現することこそが肝要である。

▼「風姿花伝」 引用、出典、参照ページ & 参考図書

※世阿弥『風姿花伝』 現代語訳つき朗読 ★上記引用元ページ https://roudokus.com/Fushikaden/05.html

※Wikipedia 世阿弥「風姿花伝」

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A2%A8%E5%A7%BF%E8%8A%B1%E4%BC%9D

※amazon Kindle版「現代語訳 風姿花伝」

 $https://www. amazon. co. jp/gp/product/B07FT95JQ3/ref=ppx_yo_dt_b_d_asin_title_351_o00?ie=UTF8\&psc=1$

※Amazon Kindle版 NHK「100分de名著」ブックス 世阿弥 風姿花伝 https://www.amazon.co.jp/gp/product/B00VESYK8K/ref=ppx_yo_dt_b_d_asin_title_351_o00?ie=UTF8&psc=1